

## WDS D イベント

モハウ・ペコ南アフリカ共和国大使スピーチ翻訳

＊（ ）内 説明付け足し

皆さま、本日、第7回世界ダウン症の日のお祝いにお招きいただきましたことは、大変光栄であり、嬉しく思います。（今年8月に）世界ダウン症会議が南アフリカで開催されることになっており、世界中からたくさんのダウン症の人々、その家族、専門家、療育などの関係者が集まることになっています。南アフリカが経験したことは、その優しさや可能性、平凡を非凡に変える能力を示しています。南アフリカは、新たな行動と考え方を導きだし、この世界会議を忘れ難いものにするでしょう。

明日、3月21日は、第7回世界ダウン症の日であり、この日は今年初めて国連により公式に認められました。これは、このことをめざしてきた活動にとってこの上ない偉業であり、世界を結び合わせるものです。ダウン症は、他の遺伝条件と違い、すべての人種、すべての経済的地位、すべての国で起こります。国連によってこのダウン症の日が正式に認められたことは、祝福されるべきことです。

しかし、ここまでの道のりは容易なものではありませんでした！「完璧な子どもとは何か」ということについての考えかたを、すみやかに変えなければならなかった、たくさんの両親の涙がありました。見た目が違うからといって拒否された、世界中のたくさんの子どもたちの傷ついた心がありました。創造主がそうあれとお決めになった彼らを受け入れることを拒んだ社会から、多くの両親が強いられた罪悪感や羞恥心を克服するための戦いがありました。

ダウン症の子どもたちは、ハンディキャップはありますが、通常の学校に通い、友達をつくり、人生を楽しみ、やがては働くことができるのです。乳幼児の早い時期に特別な援助を得ることが、より健康で、より幸福でより自立した生活を送るためのカギなのです。

この素晴らしいダウン症の人たちは、人生には知識や見た目の美しさやいわゆる「完璧なもの」よりずっと素晴らしいものがあるのだということを、日々私たちに教えてくれます。彼らは金銭では測れないものがあるということを私たちに教えてくれるのです。

世界ダウン症の日は、私たちが世界を見る目を見直すたぐいまれな機会です。終わりに（ネルソン・マンデラの大統領就任演説でも引用された平和運動家）マリアンヌ・ウィリアムスの著書「愛への返礼」に記されていることばをご紹介します。「私たちが最も恐れることは、私たちが完璧ではないということではありません。私たちが最も恐れることは、通常の尺度を超えて私たちが力に満ちているということなのです。私たちが恐れさせるものは、闇ではなく光です。私たちは自身に問います。才能あふれた素晴らしい存在になれるのだろうか？実際、そうならないわけなど無いのです。あなたは創造主の子どもです。自分を小さく演じることは、世の中のためにはなりません。あなたのまわりの人たちがあなたを気にとめなく

なるような遠慮は何ものをも啓発しないのです。私たちはすべて、子どもたちがそうであるように、輝くべく生まれてきたのです。私たちは私たちの中にある創造主の栄光を体現するために生まれてきたのです。この栄光は一握りのひとだけにあるのではなく、すべての人にあるのです。私たち自身の光を輝かせることによって、知らず知らずのうちに、他の人がそうすることを促すことになるのです。自分自身の恐れから解放されるとき、私たちはおのずと他の人をも解放する存在となるのです。」

ありがとうございました！